

児童教育を支援する
「博報財団」が、すぐれた
取り組みを顕彰する

第49回「博報賞」受賞

国語・日本語教育部門

神奈川県 ● 横浜市立白幡小学校

すべての授業を
子どもが司会し、
対話しながら進める

「ペアになった友だちと質問し合って、『あったらいいな』と思うもの』について考えましょう。2年生の国語の授業の冒頭、クラスに呼びかけたのは先生ではなく、黒板の前に机を構えた司会の子どもたち。担任は、「先生お願いします」と言われて初めて、今日の学習のめあてを確認し、机を片づけ、二重の円陣に椅子を並べるように、子どもたちをうながした。

いも活発に意見を交わすための仕掛けだ。

白幡小がこうした先進的な学びに取り組むようになったのは平成20年度のこと。自分の考えを言葉で表現できない、話を聞くことが難しい子どもが増えつつあった白幡小の課題と、全国学力・学習状況調査などに表れた、国語力や情報活用能力における課題などを危惧した教諭たちが、カリキュラム開発に取り組んだことに始まる。

教諭たちは「自ら問い、自己選択・自己決定しながら学び続ける子どもの育成」、「自主的学習力を育むカリキュラム開発」、「目的を明確にした環境整備」を3本の柱に、各教科等を貫く資質・能力「ラーニングスキル」の育成を教育課程に位置づけて研究を進めた。

「『自主的学習力』と、私はち呼んでいます。自らの力で学ぶこと、問題解決する力を高めていくことが、これからの時代を生きる子どもたちには求められます。そのときに核となるのが、『ことば

の力』なんです」と語るのは、2年生の担任で研究推進委員長を務める玉置哲也主幹教諭だ。白幡小の「ことばのやりとり」を核とした協働学習を通じて、子どもたちは「自らが

主体的に学ぶこと」を6年間の学びの中で身に付けていく。こうした「白幡スタイル」は注目を集め、公開授業には全国から400人以上の教育関係者が集まるという。

「自ら学ぶ」という経験が、子どもたちの心も成長させる

カリキュラム開発の中で、教諭たちが中心に据えたのが「何を教えるのか」ではなく、「どのように学ぶのか」だった。板書をノートに写すだけの授業スタイルから、全教科において本や資料を活用した授業に変え、オリジナルのワークシートやそれに連動したノートの開発も行った。

単なる穴埋め式だったワークシートは、知識や技能、学び方をまとめたポイントシート、思考を重ねるためのワークシート、ねらいとする学びが身に着いているか自己評価するためのチェックシートとなって、「白幡Aファイル」にまとめられ、「シンキングシート」と共に子どもたちの自主的な学びの助けとなった。また、「10分で出合いたい

本に出合える」をキーワードに、「学校図書館改造プロジェクト」も進められた。「教師たち自身が、こうした学びを体験していないので、研究は試行錯誤の連続でした。教師が悩みを抱える中、元文部科学省教科調査官・井上一郎氏の指導や助言は、とても大きなものでした。

また、PTAのOBで白幡小の後援会「白幡小いちじょうの会」会長横田竜一氏をはじめとする、保護者や地域の理解と協力が「白幡スタイル」を支えてくれています」（玉置主幹教諭）

1年生から6年生まで、反復的に「自ら学ぶ力」を経験する子どもたち。その成果は、全国学力・学習状況調査などで平均ポイントを大きく上回る、目に見える結果にも表れている。

「今後10年で、今ある仕事の半分がAI（人工知能）等に取って代わられるといったデータもあります。またグローバル化も進み、競争力も高まります。



「続けていく努力が大切」と語る鈴木校長（右）と玉置主幹教諭（左）。

その時、必要な力はそのようなものなのか。白幡小では「たくましく生き抜いていく子ども」を教育目標に、自ら学ぶ力と考える力、人間関係力を持った子どもの育成を目指しています。私は、この学校に赴任してまだ1年目ですが、子どもたちの目の輝きにいつも驚かされているんです」（鈴木秀一校長）

子どもたち一人ひとりの力をより高め、協働して学ぶ「白幡スタイル」。今日も教師と児童、児童同士の関わり合いの中で、現在進行形で進化を続けている。



円陣による話し合いではぐりぐりと二重の輪になって、向かい合わせになった友だちに自分の考えを説明し、意見交換をする。ひと通りのやり取りの後、席を移って意見交換を繰り返す。

「ことばの力」の育成とカリキュラムの開発で、子どもたち自らが学ぶ意欲と考える力を育む

10年余にわたって教科を越えた「ことばの教育」に取り組み、子どもの生きたことばの育成に成果をあげている、横浜市立白幡小学校に博報賞が贈られた。



企業の協力を得て商品開発に臨んでいる6年生。iPadで自らのプレゼンの様子を見直し、自己評価を行う。



従来の分類にとらわれず、子どもたちにとっての本の探しやすさに重点をおいた書架が並ぶ図書室。



子どもたちが自主的に学ぶためのポイントシートをまとめる「白幡Aファイル」とオリジナルの「シンキングノート」。

推薦者 お祝いのことば

博報賞の受賞、誠にありがとうございます。白幡小学校は、これまで長きにわたり、生涯を幸せに生き抜いていく力（生きる力）の育成を願い、「どの子にも“学力”（学ぶ意欲と考える力）と“人間関係力”（協働して学び合い高め合う力）を付ける」という方針のもと、「新しい教育・学校づくり」に地域と一体となって、挑み続けてきました。その挑戦が評価されたことを大変うれしく思います。今後も、個性や能力を活かしながら、夢や目標に向かってチャレンジし、よりよい社会や新たな価値を創造できる人を育む教育活動が実践されることを期待しております。

横浜市教育委員会 鯉淵信也 教育長